北千葉道路ニュース

きたちば どうろニュース

vol.9

2017年2月19日発行
千葉県北千葉道路建設事務所
〒286-0017 成田市赤坂2-1-14
TEL 0476-28-1411
編集・発行

地域の期待を乗せて

印西市(若萩)～成田市(北須賀)間の
北千葉道路4.2km開通！

千葉県施行区間である印西市若萩から成田市北須賀までの4.2km区間が、平成29年2月に開通しました。この区間の開通により、平成25年度に暫定開通した区間1.8kmと合わせると6.0kmがつながり、地域交通の流れが大きく変わりました。

北須賀交差点(成田市)

吉高交差点(印西市)

若萩交差点(印西市)

一般国道464号北千葉道路は、常磐自動車道と東関東自動車道(水戸線)のほぼ中間に位置し、首都圏の東京外かく環状道路から千葉ニュータウンを経て成田国際空港を結ぶ全長約43kmの幹線道路です。北千葉道路が整備されることにより、首都圏北部や県西地域と成田国際空港間のアクセス強化が図られるとともに、沿線地域相互の交流と連携の促進、物流の効率化など地域の活性化に役立ちます。

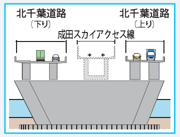
千葉県マスコットキャラクター チーバくん

北千葉道路の特徴

その1．鉄道との一体下部工

北印旛沼を渡る北千葉道路の「印旛大橋」は、成田スカイアクセス線との一体下部工の上に架設されています。道路と鉄道の下部工が一体となっている例は、極めて珍しく、高度な施工技術を必要としました。

両者の構造物がそれぞれ独立して設けられる場合に比べ、規模が小さくなり、沼周辺の自然環境への影響が軽減すると共に、工事の経済性も高まりました。



平成20(2008)年3月
印旛大橋の一体下部工の施工

その2．橋梁が多い

開通した4.2kmの区間は、北総台地の丘陵と谷津、河川が複雑に存在します。このため、自然環境の保全を図る上で、特に谷津の部分の盛土工を極力少なくして橋梁を架け、自然環境の繋がりを分断しないようになっています。

4.2kmの区間には、ランプ橋も含め15の橋梁が計画されています。

瀬戸南橋(上り)(瀬戸付近)

松虫姫橋(上り)(若萩付近)

吉高北高架橋(下り)(吉高付近)

ヨシ原の造成

北千葉道路と成田スカイアクセス線(成田新高速鉄道)が北印旛沼を渡ることで、その周辺の湿地性希少鳥類に影響を与える可能性があることから、鳥たちのすみかとして「北須賀工区」と「大竹工区」でヨシ原を造成しました。

湿地性希少鳥類が生息できるよりよい環境をつくるために「印旛沼ヨシ原の順応的管理に関する検討会」では"育てること"から"自然に育つこと"のための検討が重ねられています。

また「大竹工区」では、水路の水質改善のために水位を上げるなどの試行もなされています。

大竹工区

北須賀工区

子ども会議

地域の子どもたちに印旛沼の自然を学ぶ機会を設けるとともに、地域に愛される道路づくりを行うために、平成20年度から「北千葉道路子ども会議」を開催しています。

子ども会議では、工事現場を見学するとともに、印旛沼の自然観察を行っています。平成28年度は印西市立いには野小学校の4年生と、成田市立美郷台小学校の4年生が参加しました。

印西市立いには野小学校　平成28年6月

印旛大橋の見学

学習の様子

印旛沼の水草実験池の見学

学習の様子

成田市立美郷台小学校　平成28年6月

印旛大橋の見学

ヨシ原(大竹工区)の見学

印旛沼周辺の生物⑨

造成されたヨシ原で見られる鳥

印旛沼の岸辺のほとんどは、マコモやガマなどが入り交じった広大なヨシ原になっており、多くの野鳥が生息しています。造成された新しいヨシ原にもヨシが順調に生育し、今では小さな昆虫やクモ、小動物たちの多様な生息環境になりました。これによりこのヨシ原は、新たな野鳥のエサ場やねぐら、繁殖場所となり、希少な野鳥も見ることができるようになりました。

このヨシ原が野鳥の貴重な生息地、そして自然観察の場所として、次世代へと受け繋がれることを希望します。

文・写真：浅野俊雄氏(日本野鳥の会)

セッカ(D)　オオヨシキリ(D)　ノスリ(C)　チュウヒ(A)　ヨシゴイ(A)　ホオジロ(C)　オオジュリン(D)

注：( )内は千葉県レッドデータブックのランク

成田スカイアクセス

成田スカイアクセス線(成田新高速鉄道)は平成22年7月の開業以来、成田国際空港へのアクセスや地域を結ぶ重要な役割を果たしています。

スカイライナーは、成田スカイアクセス経由で在来線最高の時速160km/hの運転を行い、都心から成田国際空港を最短36分で結ぶ、欧米諸国に引けを取らない国際空港アクセスです。

スカイライナーの乗客数が、導入から6年2ヶ月(H28.9)で2千万人に達しました。